

◎ おわりに

今回の事例調査では、11施設の担当の方々にお話をお伺いしてきました。どの方からも予定していた時間をかなり超過してしまうほど、大変ご熱心にお話して頂きました。そのお話をお聞きしたなかで、各担当の方に共通していたことを紹介したいと思います。

それは、どの担当者も施設から自ら出て、市民や地域の方々とお互いに意見や要望を話したり、聞き入れるなど積極的に交流を図っていることです。こうした市民や地域の方々との交流から新しい企画や手法が生まれ、より地域に密着した芸術普及活動が実現しているのだと思います。本文中にも触れていますが、学校、アーティスト、市民組織との連携も担当者が市民や地域の方々と積極的に交流した結果から得られたものと思われます。

施設内だけで企画を検討していると施設側の思惑と市民の要望との差が生じ、施設側の一方向的な事業になってしまいがちです。芸術普及活動は、まず担当者が積極的におもてに出ていくところから始まるような気がしました。

これから、芸術普及活動をはじめようと考えている施設の担当者の方々には、施設からおもてに出、市民や地域の方々と交流し、お互いの意思の疎通を図るところから試みてほしいと思っています。

アウトリーチ活動のすすめ

地域文化施設における芸術普及活動に関する調査研究
報告書

調査・発行：財団法人地域創造

〒107-0052 東京都港区赤坂 6-1-20

国際新赤坂ビル西館 13 階

電話 03-5573-4050

FAX 03-5573-4060

調査委託：株式会社ニッセイ基礎研究所

発行日：2001年3月

この調査研究はジャンボ宝くじの売上金から助成を受けて実施したものです。